

一 デュエット河内音頭 (作詞作曲 河内家菊水丸)

加藤清正物語与利「殿と姫」

〜五木の子守唄入り〜

おどま盆ぎり盆ぎり 盆から先やおらんど 盆が早よ来りや早よ戻る

扱てはこの場の皆様方へ 河内音頭に歌われました

豊臣方から徳川へ 天下が移る激動の 時代を果敢に生き抜いた

加藤清正物語 不肖河内家菊水丸と

熊本人吉ゆかりの歌姫 色香漂う原みどりと

デュエット音頭の一席を 一生懸命つとめましょう

げにも五十二万石 加藤清正其の人は

伏見桃山大地震 体験踏まえて熊本城の 築城工事に生かします

其の功績を認められ 生まれ育った尾張の国 名古屋城の建設を

致さん為に熊本を 今宵最後に出立す

「お殿様、いよいよお別れですね」

「おお緑姫か・・・ 治水干拓や新田開発

わしの自慢は、高く険しい石垣の上に樹々がこんもりと茂り、
其の間よりも黒い城が見えるところよ
此の肥後に於ける思い出は尽きぬぞ・・・」

「はい、私も・・・ 殿とお忍びで里の球磨川へ参りましたこと

緑姫、生涯忘れはいたしません」

「清流球磨川か・・・」

「はい」

「緑姫、最後にいつもそなたが歌ってくれた
あの子守歌を聞かせてくれ」

おどま盆ぎり盆ぎり 盆から先やおらんど 盆が早よ来りや早よ戻る

おどんがうつちんだちゆうて 誰が泣いてくりゆきや 裏の松山蟬が泣く

おどま盆ぎり盆ぎり 盆から先やおらんど 盆が早よ来りや早よ戻る

夜が白々と明ける頃

「緑姫、元気で暮らせよ」

「お殿様も・・・」

支度万端整いて 肥後熊本を後にする そびえて高き天守閣

裏の松山緑姫が泣く 加藤清正尾張へ向かう

おどま盆ぎり盆ぎり 盆から先やおらんど 盆が早よ来りや早よ戻る

おどんがうつちんだちゆうて 誰が泣いてくりゆきや 裏の松山蟬が泣く